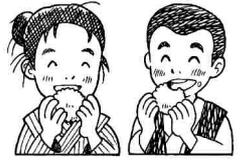


1月24日～30日は、「全国学校給食週間」です！



学校給食は、明治22年に初めて実施されましたが、戦争のために一時中断されました。戦後の昭和20年頃の日本は、食糧が不足していたため、栄養失調の子どもがたくさんいました。当時の小学校6年生は、現在の小学校4年生ぐらいの体の大きさでした。

このような日本の状況を見て、ララ（アジア救済公認団体）をはじめとする様々な支援によって三都県（東京、神奈川、千葉）の児童約25万人に対して昭和21年12月24日、学校給食を再開することになりました。

この日からはじまった学校給食は給食用物資支援によって始められたことに感謝し、12月24日を学校給食感謝の日と定めていました。



昭和25年に、給食用物資支援に対する感謝の意、学校給食の意義を考え、その将来への発展を願って、冬期休業と重ならない1月24日から30日までの1週間を新たに「学校給食週間」としたのです。

学校給食週間では、学校給食の意義や役割について、理解と関心を深め、学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的にしています。

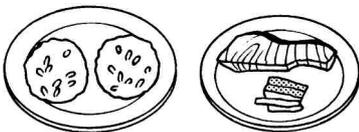
尾間木中は1月27日から31日までを学校給食週間とし、昔の給食、3学年の先生方の出身の郷土料理&思い出の給食を再現します。お楽しみに♪

学校給食の歴史

日本の学校給食は、山形県の私立忠愛小学校において貧困児を救うために提供されたことが始まりとされています。学校給食の献立の移りかわりを見てみましょう。

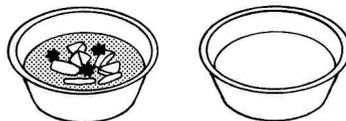


明治22年



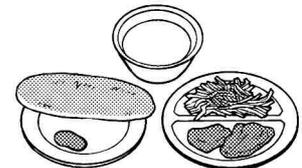
おにぎり 塩ざけ 菜の漬物

昭和20年



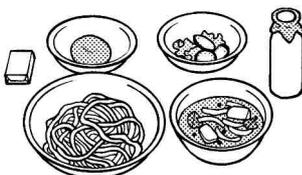
ミルク（脱脂粉乳） みそ汁

昭和27年



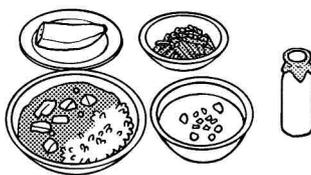
コッペパン ジャム ミルク（脱脂粉乳）
鯨肉の竜田揚げ せんきゃべツ

昭和40年



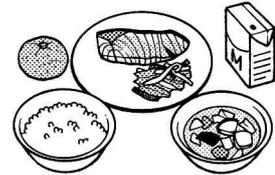
ソフトめんのカレーあんかけ 牛乳
甘酢あえ 果物（黄桃） チーズ

昭和52年



カレーライス 牛乳 塩もみ
果物（バナナ） スープ

今の給食



地場産物を活用したさまざまな献立が
つくられています。

